

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	自分の想いをもち、伝え合う子の育成
目標（評価規準）		<自分を大切に、同じように、他の人も大切にする>意識・態度の育成
重点に係る現状 設定理由		本校児童は、素直で、優しく、前向きな子が多い。また、協力的、協働的で、物事に一生懸命取り組むことができる。また、やや自主性、積極性にかける部分も少しずつだが改善されてきた。さらに、自分に自信を持ち、自分の考え・想いを持てる等、自己肯定感、自己有用感を高め、自分を大切にする気持ちを育成することで、人権を尊重した教育活動の展開を図りたいと考える。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>・【豊かな心】「自分を大切に、同じように、他の人も大切にする子が、育成されている。」という項目ではすべての教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価しているので、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。</p> <p>・「何を学ぶか～友達との関わり～」、「何ができるようになるか～ものごとを多面的・多角的にとらえ、思いやりの心を持って行動できる～」、「何が身に付いたか～多様な価値観を認め、互いの良さをみつけようとしている～」という項目では、すべての教職員が肯定的回答をしている。</p> <p>・「どのように学ぶか～自分の考えを持ち、伝え合うことで、さらに自分の考えを深める～」という項目では、約94%の教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。本年度の重点を意識した授業が行えていると思われる。</p>
各アンケート等の結果	<p>・児童は「自分を大切に、同じように、他の人も大切にするようにしている。」という質問項目には、約96%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、自分の良さ、友達や周りの人の良さや多様性を認めようとする意識が昨年度（90%）よりさらに高まっているのを感じる。</p> <p>・保護者アンケートでは、【豊かな心】「自分を大切に、同じように、他の人も大切にする子が、育成されている。」という項目では約93%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、高く評価されている。「学校全体の雰囲気アットホームに感じています。通わずことに心配がなくなりました。」と1年生の保護者から感想をいただいた。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、制限された生活や行事の中であり、罹患または濃厚接触者になった児童もいたが、その子達に対する気遣いや優しさが発揮されているのも充分に感じた。制限された生活の中でも、6年生や児童会運営委員が、自分たちで楽しい学校を創ろうという意識を持ち、全校をリードする中で、他学年に対する「思いやり」の心も育ってきていると感じる。話し合い活動や関わり合いが多い授業を意図的に組み入れることで、多様な価値観、互いの良さを認める力の育成を各教職員が意識して行っていた。来年度も、さらに【豊かな心】の育成を目指していきたい。</p> <p>・人権教育を基盤とし、インクルーシブ教育を推進する中で、認め合い、一人ひとりの居場所がある温かな学級・学年・学校づくりを、日常の学級経営、授業、行事の中で、全教職員が変わらず意識してすすめる。</p> <p>・児童会を中心に、児童一人ひとりが、より楽しくより温かい学級・学年・学校づくりを、自分たちで考え、行動にうつせるよう支援する。</p> <p>・今年度も学校の様子をできるだけ保護者の方に伝えるために、行事だけでなく日常の活動も、学校・学級通信によって意識的に多く情報発信した。その結果、保護者アンケートでは、「学校・学年・学級だよりを発信したりして、開かれた学校づくりに努めている」という項目で、約96%が「そう思う」「ややそう思う」と高く評価していただいた。来年度も積極的に情報発信を行うとともに、児童が保護者に学校での楽しい話を自分からしたくなるような、学校生活の実現を目指していきたい。</p>
学校関係者評価結果	児童・保護者アンケートの結果をみても、おおむね良好である。登校時に、高学年の子どもたちが、低学年の子どもに優しく接し、面倒をみている姿をよく見かける。運動会の全校種目でも、低・中・高が混ざったチームで、学年を越えたつながりも垣間見えた。来年度も「自分を大切に、そして、他の人も大切にする子」の育成に努めてほしい。
最終改善方策	<p>以下の3点について、課題等の改善に取り組む。</p> <p>○『学校グランドデザイン』の見直しを進める中で、全教職員が、「自分を大切に、同じように、他の人も大切にする子」の育成を目指して、すべての教育活動に取り組むことを確認する。</p> <p>○担任一人ではなく、学年や専科の先生も含んだ複数の目で、一人ひとりの児童と関わることで、いじめの未然防止・早期発見に取り組む。</p> <p>○児童が児童会を中心に、自分達でより「温かい学級・学年・学校づくり」に取り組めるよう支援する。</p>

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	自分の思いをもち、伝え合う子の育成
目標（評価規準）	＜心と体の健康を考え、がんばりぬこうとする＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、楽しく運動しているが、自らの体力を向上させようとして取り組む意識は高いとは言えない。また、何事にも取り組もうとはするが、最後までがんばりぬこうとする意志も、強いとは言えない。家庭と連携した基本的生活習慣の確立を基本に、運動でも学習でも、自分の目標を設定し、そこに向かう思いをもたせ、努力し続ける力の育成を図りたいと考える。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【健やかな体】「心も体も健康で、がんばりぬく子が育成されている。」という項目では、約94%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と評価しているため、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。</li> <li>・「何が身に付いたか～自分の学びの現状を把握し、課題解決のため、粘り強く取り組んでいる～」という項目では、すべての教職員が肯定的回答をしている。</li> <li>・「保護者や地域の人の声や考えを聞きながら連携・協力をしている。」という項目では、すべての教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。家庭と連携した基本的生活習慣の確立を基本に努力し続ける子の育成をすすめたい。</li> </ul>
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は、「学習や生活において、途中であきらめず、最後までがんばろうとしている。」という質問項目には、約91%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているため、「がんばりぬこうとする」意識が育っていると感じられる。</li> <li>・保護者アンケートでは、「心も体も健康で、がんばりぬく子が育成されている。」という項目では、約94%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているため、高く評価されている。</li> </ul>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○新型コロナウイルス感染症による制限がある中でも、朝休み、20分休み、昼休みに元気に遊ぶ児童の姿が良く見られた。ただ、運動やスポーツに意欲的に取り組む児童と、教室の中にいることが多い児童との、運動に対する意欲の差が大きくなっているのを感じている。体育の授業や行事等を通して、運動を楽しもうとする気持ち、姿勢をさらに育成していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡ノートやアンケートを有効に活用するとともに、保護者会、コミコミスクール、土曜参観授業、個人面談等、保護者と話す機会に、学校で「できていること・できていないこと」、家庭で「できていること・できていないこと」を、学校と家庭で共有することで、児童の基本的生活習慣の確立、「心と体の健康を考え、がんばりぬこうとする」意識・態度の育成を、連携してすすめる。</li> <li>・サッカー教室や県教育委員会保健体育課の講師派遣事業を通して、運動を楽しむ態度や意欲を養うとともに、自分の目標を設定し、努力し続ける力の育成を目指す。</li> </ul>
学校関係者評価結果	児童・保護者アンケートの結果をみても、おおむね良好である。登校時に、子どもたちから、大きな声で「おはようございます」の声が返ってくるのを嬉しく感じる。個々の保護者の意識も変わってきているので難しいところもあると思うが、連携をとって、基本的生活習慣の確立に取り組んでほしい。
最終改善方策	<p>以下の3点について、課題等の改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○『学校グランドデザイン』の見直しを進める中で、全教職員が、「心と体の健康を考え、がんばりぬこうとする子」の育成を目指して、すべての教育活動に取り組むことを確認する。</li> <li>○保護者会や個人面談だけでなく、学級・学校通信等を活用して、家庭と連携した基本的生活習慣の確立を目指す。</li> <li>○生活・学習・運動面において、「振り返り」を大切にし、自分の目標を設定し、その達成に向けて努力し続ける力を育成していく。</li> </ul>

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	自分の思いをもち、伝え合う子の育成
目標（評価規準）	＜主体的に考え、学び合い、解決しようとする＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、自主性、積極性にやや欠け、「自分で考え、話し合い、発表する力」が弱い部分があったが、自分から取り組もうとする姿は見られるようになってきた。ただ、まだ自分の考えを絶対に実行に移すなどの思いや、その思いを相手に伝える力がまだまだ弱い。「初声小学校グランドデザイン」の中心となる資質・能力の育成の中の、「何を・どのように学び・何が身に付き・何ができるようにするか」を常に意識した授業を行うことで目標の達成を図りたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>・【資質・能力の育成】「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子が育成されている。」という項目では、約94%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と評価しているので、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。</p> <p>・「何を学ぶか～基礎・基本、見方・考え方、学び方～」、「何ができるようになるか～自分から学び続けることができる。学んだことを自分の生活や考えに生かすことができる～」、「何が身に付いたか～学ぶこと、学び合うことを楽しんでいる～」という項目では、すべての教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。</p> <p>・「どのように学ぶか～自分の考えを持ち、伝え合うことで、さらに自分の考えを深める～」、「何が身に付いたか～学ぶこと、学び合うことを楽しんでいる～」という項目では、約94%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と回答している。</p>
各アンケート等の結果	<p>・児童は、学習についてのすべての質問項目について、「そう思う」「ややそう思う」と85%以上が回答をしているので、児童が主体的に考え、解決しようとする授業が展開されていると考える。ただ、「あまり思わない」「思わない」の回答も10%あるので、さらに個別最適な学習となるよう努める。</p> <p>・保護者アンケートでは、「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子が育成されている。」という項目では、約95%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、高く評価されている。ただ、児童とおなじように、「あまり思わない」「思わない」が約13%だったことを課題ととらえ、取り組んでいく。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○新型コロナウイルス感染症の制限がある中であったが、「話し合い・学び合いを主体とする授業」を意識して、「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子の育成」を目指した授業や活動を行ってきた。その結果、児童の「自分から取り組もうとする意識・態度」は高まったように感じる。</p> <p>・「何を学ぶのか＝基礎・基本、見方・考え方、学び方」、「どのように学ぶのか＝『めあて』を明確に、心が動く『課題』の設定、『伝え合い』の活動の設定、『振り返り』を大切に」を意識して、すべての授業の展開を考え、指導する。</p> <p>・「何が身に付いたか＝学び合うことを楽しんでいる、学びを『自分ごと』として捉えようとしている」、「何ができるようになるか＝自分から学び続けることができる、学んだことを『自分の生活や考えに活かす』ことができる」を意識した授業改善ができてきているか確認しながら、授業を行う。</p> <p>・低学年算数でのTTでの指導、高学年での専科の多用、中学年以上での担任による授業交換等の取組により、学級担任一人だけが個々の児童に接するのではなく、複数の視点で多面的・多角的に支援できる指導体制を構築する。</p>
学校関係者評価結果	児童・保護者アンケートの結果をみても、おおむね良好である。TTや専科、担任による授業交換等、指導体制を充実させ、複数の教職員の目で子どもを指導・支援することは有効だと考える。保護者や地域の人の中には、講話や体験活動をできる人もいられるので、講師としてお願いするなど、今以上に保護者や地域の人の力をかりて運営していくことも考えられると思う。
最終改善方策	<p>以下の3点について、課題等の改善に取り組む。</p> <p>○『学校グランドデザイン』の見直しを進める中で、全教職員が「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子」の育成を目指して、すべての教育活動に取り組むことを確認する。</p> <p>○令和4年度の重点目標である「自分の思いを持ち、伝え合う子の育成」は、来年度も継続して重点目標とする。</p> <p>○来年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で縮小してきた校内研究推進の取組・研修をすすめ、児童の資質・能力の育成に努める。</p>